

令和4年度 第4回 鈴鹿市立千代崎中学校 学校運営協議会 実施報告書

- 1 日 時 令和4年11月14日(月) 14:50~16:10
- 2 場 所 千代崎中学校図書室
- 3 概 要 2学期の学校教育活動報告及び地域コーディネーター研修の報告
- 4 委員の意見等

(委員長)

- ・2学期も中盤に差し掛かっており、学校行事等も充実していると拝察する。残りの学校生活も安定したものになることを期待したい。

(学校長)

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による制約もある中、少しずつ制限を緩和しながら文化祭や地域の訪問演奏など実施できた。特に、文化祭では学年別の合唱コンクールを行い、該当学年の保護者は参観することができた。また、午後は吹奏楽部の演奏を行うとともに、鈴鹿市音楽祭に出場する学級の合唱披露があり、下学年の生徒の刺激になった。
- ・今月はいじめ防止強化月間となっており、生徒会が中心となって取組を推進している。また、新規の取組として、部活動ごとにスローガンや標語等を作成する活動も実施する予定である。
- ・2年生は、キャリア教育の一環として職場体験学習を行い、労働の厳しさや達成感等を味わえる機会となった。事業所が快く生徒を受け入れてくれたことに感謝したい。これも地域の協力の賜物であると認識している。
- ・3年生は、先週、進路説明会を実施した。今年度の大きな変更点としては、県立高校の出願方法がウェブとなることが挙げられる。生徒一人ひとりの要望に応じた進路保障を行っていきたい。
- ・学校生活においては、人間関係での課題や意見等の違いから、些細なトラブルはあるものの、一定充実したものとなっている。

(1) 2学期の学校教育活動について

- ・文化祭では合唱コンクールや吹奏楽部の演奏以外に、英語部、美術部、科学部による展示があった。動画を作成し放映したり、制作したゲームを体験したりする活動があった。一部の保護者のみの参観としていたため、12月の保護者会でも見学できるようにしたい。

(2) 中体連新人大会の結果について【抜粋】

- ・中体連の新人大会では、どの部活動も持てる力を発揮した。【結果の抜粋】

※団体の部

優 勝 女子バスケットボール 準優勝 男子バレーボール

第3位 野球, 男子バスケットボール

※個人の部 () は出場大会

優 勝 男子陸上種目, 女子陸上種目, 男子柔道, 女子バドミントン

準優勝 男子陸上種目, 女子陸上種目, 男子バドミントン

(3) 地域コーディネーターの研修報告について

(地域コーディネーター)

- ・学校運営協議会員，放課後児童クラブ職員やスクールガード等を対象としたコーディネーター養成講座が行われた。学校と地域の連携及び協働に関する国の動向等に係る内容であった。著しい少子高齢化や国際化の進展に伴い，価値観の変容や規範意識の低下等に対応するために地域が学校と連携することが求められる。
- ・積極的に学校や子どもたちと関わるのが地域の役割であると捉え，子どもたちの成長に資するよう，地域と学校が協働しながら推進していく必要がある。
- ・本市では学校運営協議会等の枠組みが整備されているが，取組内容等については構成員が充実させていく必要がある。
- ・分科会で話題となったが，小学校には関与しやすいが，中学校には抵抗を感じるため，学校から地域に対して要望や意見等をいただきたい。

(委員)

- ・世代や社会の価値観の変化に伴い，今こそ地域の力が必要であると考え。
- ・世代間ごとに格差があり，地域行事等への参加も減少傾向にある。これまでの地域の伝統や文化を継承していく必要がある。
- ・学校，保護者，地域の連携を図る方策を検討していく必要がある。
- ・この地域にも伝統的行事があるが，新型コロナウイルスの影響により，近年，実施されなかった。また，若い世代では負担が多いと言われ，参加を見合わせる傾向にある。しかし，苦勞も多いが参加することで得られた良い経験を傳承していきたい。

(4) 自己評価及び学校関係者評価について

(5) 地域行事の参加について

吹奏楽部：玉桜敬老会，若松フェスタ，森の音楽会，ライブイン愛宕

美術部：玉垣児童会館文化祭での作品展示

千代崎海岸清掃 35名参加，廃品回収（11月19日実施予定）

(6) 意見交換

- ・新型コロナウイルスの感染状況について→比較的落ち着いた状況にある。
- ・不登校生徒の人数及び現状について→9月末日現在で17名である。
- ・自転車のマナー等よくなっているが，あいさつは不十分である。
- ・他府県で自転車を優先させた際，生徒が最敬礼する姿を見て感銘を受けた。こうした行為を模範としていただきたい。

(杉谷アドバイザー)

- ・学校運営協議会は自分の思いや意見が自由に表現できる場であり，委員が主体となって熟議を重ねていくことが肝要である。
- ・小学校では支援ボランティア等，学校に関与する機会が多くなっている。中学校でも教員の負担軽減のためにも積極的な関りを依頼したい。

(7) その他

- ・制服検討委員会では，制服のスタイルや選定要件等を検討している。令和6年度の導入を目指して，近隣校の状況等も把握しながら進めていきたい。